

No.8 統合失調症とその前駆症状について（講師；今村 明 氏）

○統合失調症について

統合失調症（「DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル」2013年）

- ・生涯有病率：0.3～0.7% 人権・民族・国によるばらつきあり。
男女差は明確ではない
- ・発症年齢：10代後半～30代半ば。20代でピーク。
男性の方が発症は早い。
精神病症状に先立って認知機能の障害がみられる
- ・慢性の経過。約20%は良好な経過。
- ・多遺伝子遺伝。周産期障害、父親が高齢、幼少時のストレス、感染、栄養失調などの環境因子の関与。

ブロイラーの統合失調症の基本症状（1911年）

- ・連合弛緩（話のまとまりがなくなる）
- ・自閉（閉じた世界にいるため外界との交流がうまくいかない）
- ・感情鈍麻（喜怒哀楽の消失）
- ・両価性（同一対象に相反する感情を同時に抱く）

※幻覚、妄想、緊張病性などは副症状とした

DSM-5 統合失調症（2013）

以下のうち2つ以上（少なくとも1つは1-3）、1カ月間持続。

- ① 妄想
- ② 幻覚
- ③ まとまりのない発語（例；頻繁な脱線または減裂）
- ④ ひどくまとまりのない、または緊張病性の行動
- ⑤ 陰性症状（すなわち感情の平板化、意欲欠如）

○統合失調症の症状

- ・陽性症状（幻聴、被害妄想など）と陰性症状（感情鈍麻、意欲低下など）がある
- ・中核的症状は「幻覚」「妄想」「まとまりのない行動、言動」である。
- ・認知や知覚の領域で、幅広く障害が起こる。
- ・急性期は陽性症状が目立ち、慢性期になると陰性症状が目立つ場合が多い。

○統合失調症の治療

- ・薬物療法としては新規抗精神病薬が中心。その他にも気分安定薬などを併用する場合がある。
- ・薬物療法以外の身体的治療として、修正型電気けいれん療法がある。
- ・心理社会的治療として精神療法（支持的精神療法、認知行動療法など）、心理教育、リハビリテーションプログラム（デイケア、SSTなど）がある。

○ARMS（At-Risk Mental State）

- ・ARMSに対する早期介入・早期対応が注目されている。
 - ・統合失調症はGABA/グルタミン酸神経伝達システム→ドーパミン神経伝達システムの崩壊、ARMSはその前駆状態とも考えられている。
 - ・ARMSに苦悩を伴う状態は上記システムの崩壊を促進する可能性がある。
- そのため以下のように出来るだけ苦悩を取り除く対応が必要。
- ・対応；心理教育、認知行動療法。